

« 2 年目 B さん »

Q：病院薬剤師の魅力は？

A：入院している患者さんに対して、1 週間に何度も介入することができ、その都度多職種で情報共有を行い、薬に関する提案をすることができることです。

Q：なぜ長野県立病院機構を選んだのですか？

A：5 つの病院から構成されており、それぞれの病院が特色を持っています。

病院間を異動することはデメリットに感じることもありますが、それ以上に薬剤師としての知識や経験の幅が広がるため、将来的に多くの疾患に対して貢献できるようになるのではないかと考え、入職しました。

Q：木曽病院に来て感じたことは？

A：第一印象としては、薬剤部だけではなく病院としての規模が大きいほうではないため、職種を超えて顔見知りの人が多いと感じました。

薬剤部が小規模のため、若手のうちからチーム医療に参加させていただくことが多いです。私は 2 年目で褥瘡対策チームの一員ですが薬剤師は私だけです。先輩薬剤師がいない中でも看護師さんをはじめ、チーム方々から多くのことを学ばせていただける環境にいるので、大きな不安はなく仕事に取り組んでいます。

Q：今、どんな仕事をしていますか？

A：主にセントラル業務と病棟業務に従事しています。セントラル業務は調剤、注射払い出し、無菌調製などです。

病棟業務は地域包括ケア病棟を担当しています。患者さんが退院してからでも安心して生活ができるように、薬剤管理の面から業務に取り組んでいます。

Q：仕事をしていて、うまくいなくて悩んだことはありますか？ そんなとき、どうやって解決しましたか？

A：うまくいかないこと、悩むことはもちろんあります。その時には 5 分くらい考え、解決が難しそうであれば先輩や他の職種の人に聞くようにしています。

Q：仕事をしていて、どんなところがうれしい/楽しいですか？

A：患者さんの症状や家庭環境に合った服薬方法を患者さんと一緒に悩み、薬剤師として医師をはじめとした他職種に提案し実行されることで、患者さんの症状や内服状況が大幅によくなった時には、薬剤師としてのやりがいを感じるのと同時にうれしい気持ちになります。